

CiRA Newsletter

今号のカバーイラストについて

今号は、CiRAが掲げる4つ目の目標、「日本最高レベルの研究支援体制と研究環境の整備」をテーマにしています。CiRAでは、研究者の周りに専門的な業務をこなすスタッフを配置し、研究活動をサポートする体制をとっています。また、「iPS細胞研究基金」や科学コミュニケーションの展開を通して、社会的なつながりを重視した支援体制の構築を進めています。左上では、CiRAが整備する研究環境の1つ「オープンラボ」を示しています。研究の効率アップには、こうした支援体制と環境整備が重要であると考えています。

発行・編集

京都大学iPS細胞研究所(CiRA)国際広報室
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
Tel: (075) 366-7005
Fax: (075) 366-7034
Email: ips-contact@cira.kyoto-u.ac.jp
Web: www.cira.kyoto-u.ac.jp

イラスト

CiRA国際広報室 大内田美沙紀

協力

CiRA上廣倫理研究部門
CiRA基金室

写真

CiRA国際広報室

企画・編集・制作・印刷

株式会社 編集デザイン エル

本誌の記事・写真・イラストの転載を禁じます。
Printed in Japan



特集

設立10周年
CiRAの来た道、目指す道

Part4 ~研究体制の強固な整備に向けて~

2021年1月号

Vol. 44



新型コロナウイルス感染症と論文を「審査する」営み



井出 和希 助教

研究者はその成果を学術論文としてまとめ、知見を社会と共有します。その際、論文の内容について詳しい他の専門家が審査をおこない、掲載の可否を決めたり、掲載を留保して修正を依頼したりします。この過程を「査読」と呼びます。ただし、査読を経て論文が出版されるまでには、数か月～数年を要することもあり、迅速に知見を共有することが困難になることもあります。

「プレプリント」はこの問題に対処することのできる一つの方法であり、審査を受ける前の段階で論文を公開し、知見を共有する営みです。その歴史は1960年代にはじまり、2019年に入ると医学系に特化した場も登場しました。そして、新型コロナウイルス感染症の拡がりは、この営みの良い面と悪い面を鮮明に描き出しました。

良い面は、知見を共有するまでの時間です。プレプリントはわずか数日で世の中に出ます。そのため、最新の知見を共有し、議論をする上で有用です。一方、悪い面として、審査を受けていない故の信頼性のばらつきや氾濫のしやすさが挙げられます。後者に注目した私たちの分析によると、新型コロナウイルス感染症にまつわるプレプリントは、9月末時点で16,000報以上出版されていました¹。また、内容は、ウイルスのゲノム情報から検査、治療法、感染症の拡がりに関する調査など、多岐に渡っています。

もちろん、審査を受けたからといって学術論文の内容が信頼できるとは限りません。実際、新型コロナウイルス感染症に関連して、著名な医学誌に掲載された学術論文が相次いで撤回されるということも起こりました^{2,3}。

このような混乱は、私たちにただ尤もらしいことや権威を信じるのではなく、理路を冷静にみつめ思考・対話することを求めているように思われます。

(文・上廣倫理研究部門 井出 和希)

1. Ide K, Koshiba H, Hawke P, Fujita M. Guidelines are urgently needed for the use of preprints as a source of information. J Epidemiol. 2020, in press (online ahead of print).
2. Mehra MR, Desai SS, Kuy S, Henry TD, Patel AN. Cardiovascular disease, drug therapy, and mortality in COVID-19. N Engl J Med. DOI: 10.1056/NEJMoa2007621. [Retracted]
3. Mehra MR, Desai SS, Ruschitzka F, Patel AN. Hydroxychloroquine or chloroquine with or without a macrolide for treatment of COVID-19: a multinational registry analysis. Lancet. DOI: 10.1016/S0140-6736(20)31180-6. [Retracted]